

お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール

BBS GROUP NEWS

BUSINESS
BRAIN
SHOWA-OTA
GROUP NEWS

Vol.46 [JANUARY・2014]

セミナーレポート

IFRS時代の経営管理フォーラム【第5回】

「企業経営の新たなステップ」

TOPICS

情報セキュリティ研究所の所長が
福島県須賀川市長・橋本克也氏を表敬訪問

「V・明日夢(みらい)プロジェクト」
バレーボール教室に協賛

日本障害者クロスカントリースキー協会と
スポンサー契約を締結

グループ会社のソリューション紹介

株式会社PLMジャパン

「PLMconsole®」

IFRS時代の経営管理フォーラム【第5回】

「企業経営の新たなステップ」

IFRS時代を迎え、企業を取り巻く環境が大きく変化するなか、
企業経営の新たなステップを探るお客様セミナーを開催。

経済・社会がダイナミックに変化するなかで、今後の日本企業がとるべき方策とは——2013年11月8日、BBSでは、お客様が抱えるさまざまな経営課題の解決策を紹介するセミナーを開催しました。

当日は、まず、当社代表取締役社長の石川俊彦が上半期の当社業績について触れ、お客様へ感謝の言葉を述べるとともに、「グループ経営の強化・グローバル化を図るお客様をサポートするため、当社も海外拠点とサービスの拡充を進めている」と当社の取り組みを紹介。この挨拶に続き、有識者やお客様による講演、当社コンサルタントによるセッションを行いました。

プログラム

- | | | |
|--------|--|-----|
| ご挨拶 | (株)ビジネスブレイン太田昭和 代表取締役社長 石川 俊彦 | |
| 基調講演 | 「アジアダイナミズムと日本」
(一財)日本総合研究所 理事長 寺島 実郎 氏 | ▶P3 |
| お客様講演 | 「経営者の求める
経営管理情報とシステムとは」
JFEシステムズ(株) 代表取締役社長 菊川 裕幸 氏 | ▶P4 |
| セッション① | 「グローバル経営を支える
連結経営管理基盤の構築」
(株)ビジネスブレイン太田昭和
アカウントティングコンサルティング部 部長 倉林 良行 | ▶P5 |
| セッション② | 「中国・ASEAN進出、真の現地化のために」
(株)ビジネスブレイン太田昭和
グローバルソリューションサービス事業部 事業部長
松江 芳夫 | ▶P6 |

懇親会



開催概要

日時：2013年11月8日(金) 14:00~17:50
会場：東京コンファレンスセンター・品川
主催：株式会社ビジネスブレイン太田昭和

アジアダイナミズムと日本

講師：一般財団法人日本総合研究所 理事長 寺島 実郎氏

「アベノミクス」の構造と世界のエネルギー・パラダイムを概観

基調講演では、一般財団法人日本総合研究所理事長の寺島実郎氏を講師に迎え、「アジアダイナミズムと日本」と題してお話をいただきました。

寺島氏は、企業経営には「正しい時代認識を持つ」ことが不可欠であり、そのために経営者は対話などを通じてさまざまな意見を聞くことが大切であると指摘。アジア市場の動向を解説するにあたって、「アベノミクス」を中心とする日本経済の状況と、経済や企業経営と密接に関わる世界のエネルギー情勢を概観しました。

まず、日本経済の状況については、株価が上昇したことで、「アベノミクスによって経済が回復しているように見られているが、さまざまなデータをつぶさに分析すると株価上昇は外国人投資家によるところが大きく、「幻想」ともいえるあやうい状況」にあると解説。その上で、今後実体経済の回復に向けて実施される施策を注視する必要があると述べました。また、エネルギー情勢については、北米におけるシェールガス革命を契機に、「世界のエネルギー・パラダイムは大きな転換期を迎えている」と指摘。日本企業は、こうした国内外の状況を的確に捉え、柔軟に対応することが重要になるとの考えを述べました。

グローバル経営の推進に求められる「大中華圏」「環日本海」地域への視線

次に、話題の柱をアジア市場の動向分析に移し、「近年、『陸の中国』（中国本土）と『海の中国』（香港・台湾・シンガポール）が相互に連携し、『大中華圏』ともいえる大きな経済圏を形成している」と話しました。

例えば、香港は中国本土から訪れる年間2,800万人を超える渡航者によって観光産業が活況を呈しており、台湾でも馬政権の成立後、中国との航空便が週700便を超えた状況を紹介。「中国が香港・台湾の資本や技術を成長のジャンプボードとして使い始めている」と指摘しました。また、大中華圏の南端に位置し、東南アジアとの結節点になるシンガポールは、中国からの医療ツアーの受け入れや、ITやバイオ分野の振興に力を入れ、1人



寺島 実郎 (Jitsuro Terashima)

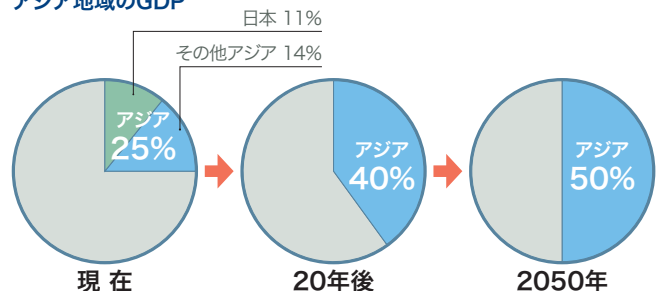
1947年、北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学専攻科修士課程修了。現在、三井物産戦略研究所会長、多摩大学学長を兼任。

あたりのGDPは日本をはるかに上回る水準を維持していると解説しました。さらに、こうしたなかで、大中華圏内にある港湾の取扱量が世界的に伸長し、日本においても大中華圏に面した日本海側の港湾の存在感が増していると解説しました。

また寺島氏は、ロシアとの関係にも触れ、「エネルギー調達の問題を考えれば、今後はロシアとの連携が重要になる」と指摘。大中華圏、さらにはロシアを含めた「環日本海」地域の動きを見据えた時代認識が、グローバル経営を推進する上でのカギになると述べ、講演を締め括りました。

アジアのプレゼンスと「大中華圏」

アジア地域のGDP



大中華圏の躍動

- ・大中華圏の実体化：この10年間でヒト・モノ・カネの相互交流が深化
- ・世界の華人・華僑ネットワーク：約6,000万人（95%は漢民族）

資料集「寺島実郎の時代認識と提言」（2013年秋号【改訂版】より作成）

お客様講演

経営者の求める経営管理情報とシステムとは

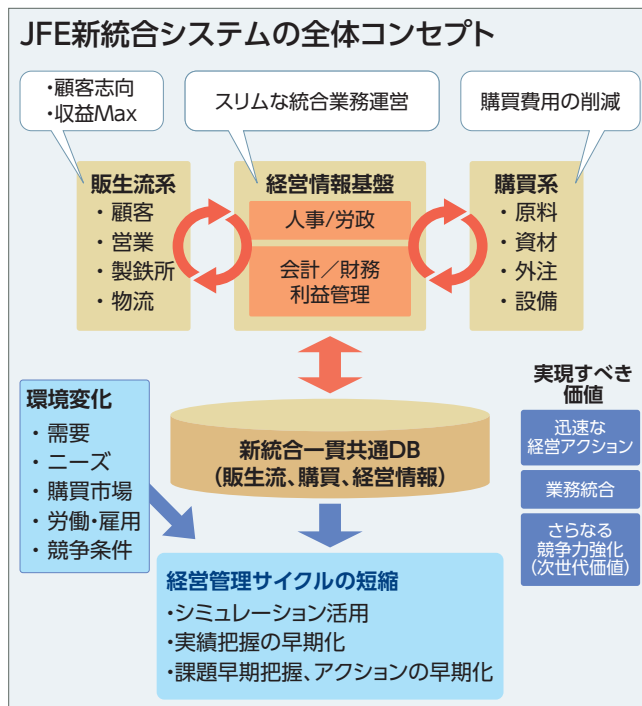
講師：JFEシステムズ株式会社 代表取締役社長 菊川 裕幸氏

迅速な経営判断を可能にする 新たなシステムの構築に注力

お客様講演では、JFEシステムズ株式会社代表取締役社長の菊川裕幸氏をお招きし、JFEグループが企業統合において推進した収益・採算モデルの確立やシステム統合の取り組みなどについてお話いただきました。

JFEグループは、鉄鋼業のグローバルな競争のなかで存在感を發揮し、将来の成長基盤を構築するべく、2002年にNKK(日本鋼管)と川崎製鉄が経営統合して発足。設備の大胆な廃集約や、人材交流と人材の適正配置、新たな視点での技術開発を進めるなど、両社統合のシナジーを追求する施策を積極的に実施し、大きな成果を上げています。

菊川氏は、こうしたこれまでの取り組みを振り返るとともに、「経営の基本は“定量化”にある」という考えのもとに、ITを活用して企業活動の実態を迅速に把握する仕組みを整備してきたことを説明。「経営管理サイクルの短縮」と「迅速な経営アクション」の実現をめざして、コスト情報、損益情報、会計情報の一元的な管理が可能システムを構築したことを紹介しました。



システム統合における課題・成果と、「経営に役立つソリューション」を紹介

続けて菊川氏は、システム構築における具体的な取り組みに言及。当初は旧NKK、旧川崎製鉄の2系統の本社システムとは別に、各工場でも個別のシステムが運用されていたため、「本社および各工場が持つ膨大な情報をいかに統合するか」が大きな課題になったと解説しました。この課題に対して、「コスト・収益管理の考え方や言葉の意味内容の統一」から着手し、コスト、損益、会計の各情報のうち、できることから制度・方式の統一とシステム統合を進めた結果、月次損益確定と決算処理の早期化が実現し、「迅速な経営判断につながっている」とその成果を披露しました。

講演の後半では、JFEシステムズ様がシステム統合の過程で培ったノウハウを活かして、グループ外の企業へも“経営に役立つソリューション”を提供していることを紹介。ERP、BI、原価管理、Webデータベース、電子帳簿データ保存など、多彩なソリューションラインアップを紹介するとともに、2013年5月からはBBSと戦略的な業務提携を推進し、相互のソリューション活用などを進めていることについて触れ、講演を終了しました。



菊川 裕幸 (Hiroyuki Kikugawa)

1950年、神奈川県生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。1974年、川崎製鉄(現JFEスチール)に入社。2010年6月から現職に就任。

グローバル経営を支える連結経営管理基盤の構築

講師：株式会社ビジネスブレイン太田昭和 アカウンティングコンサルティング部 部長 倉林 良行

情報ニーズへの対応の遅れは 大きな経営リスクに

当社コンサルタントによる1つ目のセッションでは、アカウンティングコンサルティング部部長の倉林良行が、連結経営管理基盤の構築のポイントについて、解説しました。

倉林は冒頭、日本企業のグローバル化が進むなかで、マネジメントの要件が変わり、情報ニーズが多様化していることを指摘。グローバル経営に必要な情報を体系的に整備・活用できていない企業は、業務効率の低下と管理部門の肥大化による管理コスト増や、タイムリーな実態把握の遅れ、さらには意思決定の遅延・誤りなど、大きな経営リスクを抱えていることを説明しました。

その上で、「企業には従来システムの延長ではなく、グローバル経営管理に資する情報基盤が求められている」と述べ、「経営実態の見える化」「管理の効率化」を柱とする経営管理のグランドデザインが必要であると強調しました。

「改革の3つのハードル」を乗り越え、 グランドデザインを推進

グランドデザインの策定においては、「知識の壁」(原価、製造、システム、経営管理など多岐にわたる知識の共有)、「課題把握の壁」(さまざまな部署へのヒアリングと各部署から出された指摘事項の整理・検討)、「計画づくりの壁」(改革を進めるにあたっての優先順位づけ)という「3つのハードル」があることを指摘。担当者任せにしている「これらの解決は図れない」として、



倉林 良行 (Yoshiyuki Kurabayashi)

大手製造メーカー勤務を経て、BBSへ入社。グランドデザインの作成を中心にコンサルティングを行う傍ら、コンサルティング方法論の開発と教育にも携わる。

経営層が推進体制づくりから支援する必要があることを強調しました。

さらに講演では、前述の3つのハードルを乗り越えるためのBBSのコンサルティングサービスについて紹介。「知識の壁」に対しては企業モデルや業務機能モデル、システムモデルなどのツールを、「課題把握の壁」には問題分析手法を、「計画づくりの壁」にはグランドデザインの具体的な方法論を提供し、グランドデザインから業務機能・業務プロセスに関わるコンポーネントの開発、継続的な機能改善までワンストップでサポートしていることを説明しました。

まとめとして、連結経営管理においては会社の組織構造、経営管理方式を踏まえた「めざすべき姿の定義」が必要であり、その「道しるべ」「共通のバイブル」となるグランドデザインが重要になることに改めて言及。「BBSのサービスをぜひ活用していただきたい」と述べ、講演を締め括りました。なお、本講演の主要論点については、著書「すらすら原価管理」(中央経済社)で詳述されています。

書籍紹介

『すらすら原価管理』

(ビジネスブレイン太田昭和 倉林良行[著] / 中央経済社発行)

閉塞した経営状況を打開し、勝つための意思決定を支える「新たな経営管理の仕組みづくり」には何が必要か。今後の「原価管理」と「経営管理」の方向性を考える基礎として、現在の日本企業が直面している課題や新たな連結経営管理モデルについて解説しています。



セッション②

中国・ASEAN進出、真の現地化のために

講師：株式会社ビジネスブレイン太田昭和 グローバルソリューションサービス事業部 事業部長 松江 芳夫

ビジネスモデルの変化によって 現地法人を“見なければならぬ”時代へ

2つ目のセッションでは、当社グローバルソリューションサービス事業部事業部長の松江芳夫が、日本人CFOがいない海外現地法人に対する内部統制、健全性チェックを効率化する会計管理サービスを紹介しました。

中国・ASEAN市場では、加工貿易から地産地消型モデルへとビジネスモデルが変化し、日系企業においてもこれら地域での売上比率が拡大しています。松江は、こうしたなかで日系企業が抱えている課題として、「現地法人に日本人CFOを置く余裕がないケースが多く、現地の活動状況がブラックボックス化し、会計情報についても不透明になりやすい」ことを指摘。「現地法人を“見える化、分かる化”する仕組みが求められている」と話しました。

また、現地法人の経営を透明化するためには、定期的な財務状況の健全性チェックに加え、現地の制度に詳しい専門家による分析、CFO代行、経営アドバイスが有効であることを、社員の健康診断に例えて説明しました。

現地法人の“見える化、分かる化”を実現する 「仕訳HUBクラウド&CFO代行サービス」を紹介

次に、具体的なソリューションサービスとして、BBSが、中国やアジアで事業を展開する企業の会計・税務業務支援などに強みを持つマイツ社と共同で提供している「仕訳HUBクラウド&



松江 芳夫 (Yoshio Matsue)

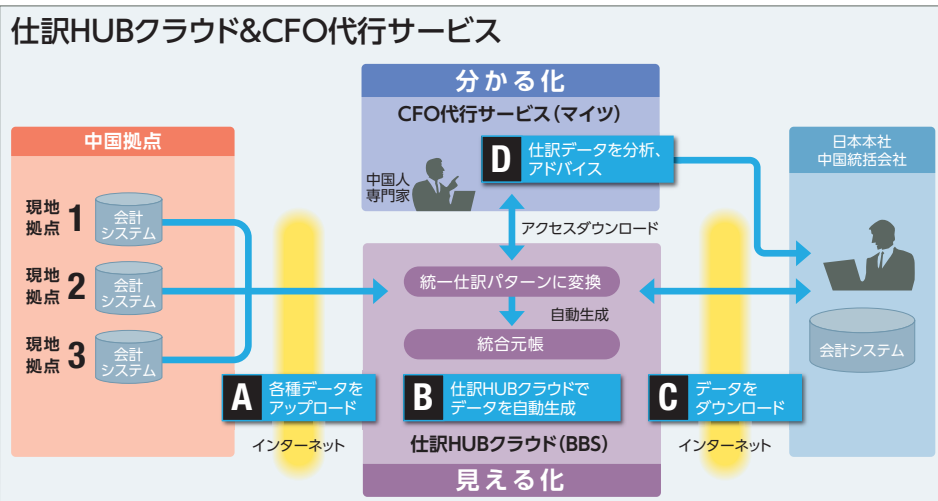
2004年から中国・アジア市場を開拓し、華僑ネットワークとの連携による同市場への進出を推進。現在、シンガポール支店長を兼任。

CFO代行サービス」を紹介。現地法人が運用している会計パッケージの情報をそのままアップロードするだけで、仕訳HUBクラウド上で統一仕訳パターンに変換され、統合元帳が作成できることを説明しました。

さらに、その仕訳明細を会計士が分析し、アドバイスすることで、現地の会計情報が日本にいながらにして簡単・正確に“見える化、分かる化”できることを強調。「現地への問い合わせが減り、双方のスタッフの負荷が軽減される」「日本から現地へ足を運ぶ

ことを考えれば、コスト面でも優位性がある」、といったメリットにも言及しました。

最後に、「仕訳HUBクラウド&CFO代行サービス」のさらなる機能強化に向けたロードマップと、パートナーであるマイツグループについて紹介。「中国・ASEAN市場における真の現地化のためには健全な経営環境づくりが不可欠である」と訴えて、講演を終えました。



情報セキュリティ研究所の所長が 福島県須賀川市長・橋本克也氏を表敬訪問

BBS情報セキュリティ研究所では、福島県須賀川市で2013年7月に「個人情報保護研修」を実施しました。これに先立ち、研修の講師を務めた同研究所所長の小田部昭が須賀川市長である橋本克也氏を表敬訪問。情報セキュリティのあり方などについて意見を交わしました。

このなかで橋本市長は、「情報は『市民の皆様からお預かりしている』ものであり、職員と市民の皆様が協働する体制を整えて、個人情報保護の取り組みを進めていきたい」との考えを述べられました。

また、研修は2012年度および2013年度に採用された計50名の職員を対象に実施。同市の情報セキュリティポリシーの内容を確認するとともに、行政機関が個人情報を保有するのは行政サービスの向上のためであることや、情報を預かる行政機関は市民にその利用と保護に関する取り組みを説明する責任があることを解説しました。



橋本克也 須賀川市長(左)、小田部昭 情報セキュリティ研究所長(右)

橋本市長との意見交換の内容をWebサイトで詳しく紹介しています。

URL : <http://bbscms01.bbs.co.jp/column/sukagawa.html>

「V・明日夢(みらい)プロジェクト」 バレーボール教室に協賛



教室に参加した小学生と選手による記念撮影

2013年8月、東京都内で日本バレーボール協会「V・明日夢プロジェクト」によるバレーボール教室が開催されました。このプロジェクトは、バレーボール界の発展や次代を担う子どもたちとのふれあいを目的にVリーガーOB・OGが中心となって進められている活動で、BBSはCSR・社会貢献活動の一環として協賛しています。

3回目となった今回は小学生113名が参加。参加した小学生たちは、元日本代表の櫻井由香選手など4名の元Vリーガーの指導のもとレシーブ・アタック・トスといった基本的なテクニックを学んだあと、選手とのゲームにも挑戦し、元気いっぱいバレーボールを楽しんでいました。

日本障害者クロスカントリースキー協会と スポンサー契約を締結

BBSは、「社会の一員」として広く社会に貢献するために、2013年10月、日本障害者クロスカントリースキー協会との間でスポンサー契約を締結しました。

同協会の登録選手のなかには、障害者クロスカントリースキー日本チームのメンバーとしてワールドカップやソチパラリンピックでの活躍が期待される選手も多く在籍しています。BBSはスポンサーシップを通じてその活動を応援し、障がい者スポーツの振興に取り組んでいきます。



バイアスロン競技

「PLMconsole®」

利益を生むものづくりを実現

PLMは製造業におけるQCD向上の要であり、ERPと並び立つ最も重要なソリューションです。PLMジャパンはPLM構築の専門ベンダーとして、30年以上にわたって豊富な経験と実績を蓄積してきました。PLMジャパンがコンサルティング経験と構築ノウハウを集結して開発した純国産PLMソリューションの「PLMconsole」は、製造業における製品の企画・設計・生産準備・生産・販売・アフターサービスというライフサイクル全体にまたがる製品情報を最適に管理するためのITソリューションです。

お問い合わせ先

株式会社PLMジャパン 営業本部

E-mail: sales_group@plmj.jp

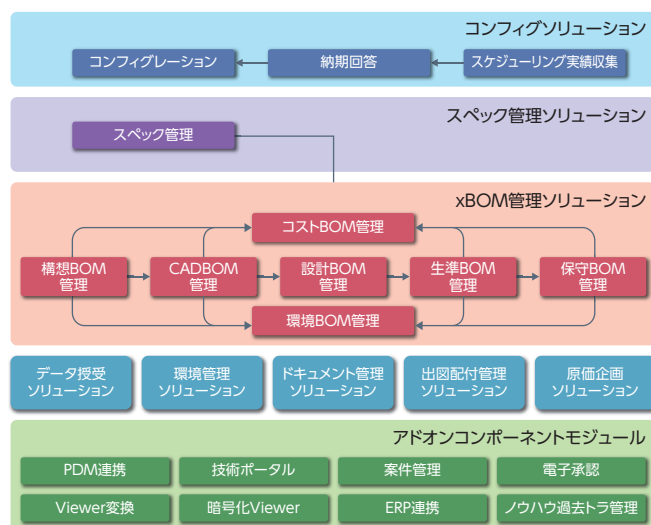
TEL: (東京) 03-3507-1340

(名古屋) 052-220-5215

(大阪) 06-6940-0081

URL: <http://www.plmj.jp/>

ソリューション・モジュール構成



PLMシステム導入効果



製品開発力の強化

- 設計・生産準備の同時・垂直立ち上げ
- コスト・品質の作り込みを設計段階にフロントローディング



引合支援・利益率向上

- 見積精度向上と迅速な回答
- 原価企画・VE活動支援



個別受注生産支援

- 製番単位のコントロール
- 保守サービスの向上

お客様の声

株式会社イシダ様

当社は、食品分野・工業分野・医療分野において計量・包装・検査・表示機器などを製造・販売しており、世界80カ国以上で事業を展開しています。

現在、世界品質とスピード経営を支えるシステム構築に取り組んでいます。そのなかで、製品情報すべてを統合管理する基幹システムであるPLMシステムとして、将来性・操作性・コスト・ベンダーの信頼性から、「PLMconsole」を導入しました。まず、図面管理システムを導入し、図面や案件に関わる全情報が管理できる環境を構築しました。

さらに、部品表管理や電子承認による設計変更管理システムの構築に取り組んでおり、今後も、「PLMconsole」の多彩なオプションを活用する計画です。

株式会社イシダ

本社所在地 京都市左京区聖護院山王町44番地

創業 1893年5月23日

事業内容 計量・包装・検査・表示機器の製造販売

URL <http://www.ishida.co.jp/>

編集後記

昨年は2本のテレビドラマが大きく注目を浴びました。“じぇいじぇい”「あまちゃん」と“倍返し”「半沢直樹」。全くジャンルの異なるこれらの作品が、多くの視聴者を夢中にさせた理由とは一体？それはひとえに登場人物の魅力に尽きると思います。主人公はもとより、その周辺の人々も皆個性的で生き生きと描かれ、それぞれが悩みを持ち挫折をしながらもお互い助け合い、粘り強く前を向いて歩をすすめる。そんなたくましい人間の姿に私たちは理想と希望を見出し、強く共感したのではないのでしょうか。



株式会社ビジネスブレイン太田昭和

発行：BBS GROUP NEWS 編集室

〒105-0003 東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル21F

TEL: 03-3507-1300 FAX: 03-3507-1301

URL: <http://www.bbs.jp>

本誌に対するご意見ご要望を編集室までお寄せください。